国指定史跡『出雲王の眠る西谷墳墓』景観保全

西谷墳墓群は、弥生時代の終わりごろ（約１８００年前）から約５００年間にもわたって墓地だったためずらしい遺跡である。中でも２・３・４・９号墓は弥生時代に造られた全国最大級の四隅突出型墳丘墓（よすみとっしゅつがたふんきゅうぼ）で、代々の出雲王たちが葬られたと考えられている。出雲市は西谷墳墓群の整備を行いその整備の一部にマグネシア系土壌固化材が出雲市の採用になったのか下記で説明したい。

当社の舗装名人が出雲市文化財課の決定により使用されるに至ったのは以下の理由による。施工された場所は出雲市の西谷墳墓群、この墳墓群は弥生時代後期終わり頃（２世紀末）から古墳時代にかけて築造された遺跡である。特に中国山地から日本海沿岸地域に多く分布する四隅突出型墳丘墓が６基築造されていることで有名で、弥生時代後期終わり（２世紀末～３世紀）につくられた西谷２号墓、３号墓、４号墓、９号墓は全国的に見ても大型の墳丘墓で、９号墓は日本最大の四隅突出型墳丘墓である。

平成１２年３月には、西谷墳丘墓が国史跡の指定を受け、出雲市は平成１２年４月から西谷墳墓群史跡公園の整備を開始し、平成２２年３月に西谷墳墓群のガイダンス施設となる「出雲弥生の森博物館」とともに整備が完了した。公園整備では、２号墓、３号墓の復元が最も大きな整備となった。２号墓の整備では、墳丘墓の内部に入って、埋葬した状態を特別な装置を使って見せるという、大変ユニークな仕掛けをしており、来園者に喜ばれている。「舗装名人」の使用は２号墓の外観となる天場と歩道に、コスト面の考慮と景観や植物など周辺環境に与える影響が少ないことで採用となった。

施工業者は西谷２号墓の復元整備にあたり、景観・防草対策で周辺環境、歴史感、動物、植物を考慮してマグネシア系土壌固化材（舗装名人）の使用を提案した。回遊路である歩道、憩いの広場、また写真の２号墓復元では、天場・石と石との間詰めによる防草対策で舗装名人に絞り、地域のまさ土でサンプル製作後、本工事の使用材料として「舗装名人」が採用された。同固化材は、サプリメント・肥料の成分でもあるマグネシウムを主成分としており動物・植物には無害であることも関係した。また、施工済みまさ土舗装の修復も容易であり、発生した残土は産業廃棄物処分にしなくても良い点も評価の一つとされた。

古墳群は全国に点在していることは間違いない。ただし、地方自治体において古墳群の管理はバラバラのようである。近年、温暖化とともに文化遺産の管理も大変な状況と思える。一つの例として、堺市の仁徳天皇陵があることは皆さんご存知と思う。上記で説明した土・草に対する環境対策としての防草名人、舗装名人ではないが仁徳天皇陵の周囲は広大な池で囲まれている。この池に昨今アオコが大繁殖しているということである。原因は多々あると考えられるが一つは近隣の住宅よりの汚水の流入による富栄養化に伴うアオコの繁殖が考えられる。結果的に夏場のアオコの大繁殖による文化財遺産の見栄えの悪さと悪臭、また、暑い時期を過ぎた後に水面のアオコが底泥に沈殿することでより富栄養化を

助長する要因ともなっている。温暖化が文化財の管理に対して相当の負荷をかけることは間違いないと考える。前段に戻るが舗装名人で土舗装するとヒートアイラント現象の防止にも役立つ。現存する古墳群の維持管理や今後の整備において土舗装の採用を検討することも必要と考えられる。

今後の当社環境材の期待できそうな用途や分野について以下の使用方法が考えられる。

１．高速道路の中央分離帯並びにのり面の防草対策
２．線路わきの防草対策
３．都市部のビルとビルの合間の土舗装（舗装対策=ヒートアイランド対策）
４．都市部におけるゲリラ豪雨対策のため土舗装に変更を進めることによる土による水量の低減対策（舗装名人）
５．高齢者が居住する一戸建ての自宅に対する防草対策
６．墓の防草対策等

以　　上

弥生時代における西谷２号墳墓上での祭事風景

【問い合わせ先】

発注者：出雲弥生の森博物館　出雲市文化環境部
文化財課　福田善実　課長補佐
0853.-25-1841
施工業者：株式会社　ワイエム代表取締役社長
松本政義　090-3378-3306
環境材販売先：宇部マテリアルズ㈱　阿野憲一
080-1945-8072
同社　経営企画部ＩＲ室　竹馬　剛人
090-2768-3997